

○亀甲副委員長 るるお話が出ていたので、ほぼ出ていると思うのですが、再度質問させていただきます。

私達の会派としても、今回の請願内容について平城高校関係者の皆様と、同窓会関係者の方々にお声を聞かせていただき、吉田教育長にも同席していただきました。先輩議員から、議会で質問なども行ってきたと聞かせていただいています。

また、県立高等学校適正化実施計画も賛成の立場で、山中議員から討論もさせていただいており、こういうふうに活用してほしいなど、3つの項目も上げさせていただき、その要望を反映する形で、地域と共にある学校づくりのさらなる推進の項目に、学校と地域の協議会を2020年度から設置する内容が盛り込まれ、要望の際には、様々なメモリアル遺産については現高等学校で保管するという発言が吉田教育長からあったとお聞かせいただいています。

これまで教育委員会として、請願の内容について、奈良高校側にも調整いただき進められたと認識していますが、奈良高校側に対する話合いも含め、どのような認識で進めているのか、教育長にお伺いします。

○吉田教育長 私自身、県立高等学校適正化実施計画を実施させていただきながら、多くの皆様に混乱させたことに対して、本当に申し訳なく思っていますし、それに対して、粒谷委員の質問にもお答えしましたように、繰り返し繰り返し自分の中で反省してきたことも事実として受け止めていただきたいと思います。

そのような中、何年間も積み重ねながら、何を残していけるのか、何を残すべきか考える考えながら、3年間、奈良高校の校長と、今年度退職しますけれども、このことに関して話をしながら、教育委員会の考えを理解していただきながら、あるいは奈良高校の同窓会、育友会にも理解していただくような努力を校長からしていただきながら、最終的に今回のこの請願につながったと受け止めています。

先ほども言いましたように、融合とはとけあう、すなわちお互いに理解し合う、そして、わだかまりがなくなって仲よくなってもらい、そういった気持ちを込めながら、今後この請願に対する取組をすべきではないかと決意しています。

○亀甲副委員長 両方が本当に理解して、同じ方向へ向いていくのが大切だと私も実感しています。そのとき私はいませんでした。私の学校も統合になっており、ここまでの話にはならなかったのですが、統合した、校舎もなくなったほうからすると、いろいろな思いがあると思います。しっかりとこの請願に基づいて、教育委員会として前へ進めたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。